

第 86 回 東葛しぜん研修観察会

ハケの道を歩いて 船戸の森を訪ねる

鈴木 俊二

日 時：2020 年 11 月 10 日（火）9：30～12：30

場 所：我孫子市台田、根戸新田

参加者：指導員 13 名

コースは北柏駅→北星神社→法華坊館遺跡を通り常磐線の鉄道横断橋を渡り、竹林を抜け根戸城址。根戸城址からハケの道を通り武者小路実篤邸を見学して船戸の森へ、再びハケの道をとおり解散場所の北柏故郷公園まで約 3 時間のコースを歩きました。ハケの道とは台地斜面の地下水がしみだすあたりをハケと呼び手賀沼の水際で生活道として機能していた。

- 北星神社では「イエス、ノウ」のクイズ形式で樹木の名前を探してもらいました。目の前の大きなスダジイに気を取られ、正解のカヤノキを当てた人はいませんでした。
- 保線橋からは法華坊館遺跡・御蔵屋敷跡など縄文～中世までの遺跡の高低差を感じてもらいました。この日は天候もよく保線橋からは富士山やスカイツリーも見えました。
- 北側斜面の 20m 範囲を指定し、紫色の植物を各自が探して報告してもらう。正解は「ノササゲ」で自分が探したものが一番、紫色が鮮やかで数が多いと競い合いました。
- 竹についてはモウソウダケの竹林で、用意したマダケで竹の説明。おいしい竹の種類等。竹林の中で数日前に猛禽に襲われたハトの羽が散らばっている解体場所を観察。
- ヒサカキの実をティッシュの中でつぶしてきれいな紫色の汁と種を観察してアサギ色の染料や野鳥の被食散布を想像しました。
- 落ち葉の多い場所でみんなに小枝を渡しカブトムシの幼虫探しをしました。下見時には沢山いましたが、この日はなかなか見つけられず困っていましたが誰かがついに見つけ、みんなで幼虫の感触、大きさ、重さを実感してもとに戻しました。
- 下見時に見つけたマルバノキ(マンサク科)を観察してもらいました。黒紅紫色で背中合わせに 2 つの小さな花とつぼみを観察しました。
- 解散後、北柏故郷公園でメタセコイアにいたキボシカメムシを発見した。

この研修で私の地元、特に中世(15 世紀から 16 世紀後半)の歴史について理解できるようになりました。北星神社は千葉氏の北辰信仰から妙見菩薩を守護神として奉り、妙見様の神使いは玄武で境内に亀(蓑亀)の石造が 2 対おかれている。明治時代に神仏分離で北星神社になった。法華坊館跡は相馬氏に関係ある館で栃木県の足利氏の館に匹敵する大きさ。根戸城址は 16 世紀後半の構造といわれ、東側に櫓台のあるスペースが存在。武者小路実篤邸は白樺派の創始者で大正 5 年～7 年まで住んだ居住。当日、持ち主の三協フロンティアにお願いして庭を見学させてもらいました。志賀直哉、柳宗悦と交流、ハケの道や小舟で行き来したといわれている。



武者小路実篤邸の庭